

平成29年度 全国中学校体育大会
第39回 全国中学校軟式野球大会 出場校紹介

関東ブロック 第3位	ふりがな 群馬県	まえばしりつだいなちゅうがっこう 前橋市立第七中学校									
チームの戦力分析											
1 投手について											
<p>主戦細野が、球威のあるストレートとキレのある変化球で主導権を握りゲームをつくる。市大会、県大会と一人で投げきり6試合で1失点と好投した。関東全国への原動力となった。控えとして、右スリークォーターから緩急とコースで勝負する角田、右上手投げから低めにボールを集める松井、内野の要である二塁茂木も状況に応じて登板する可能性がある。左オーバーハンドの田村もプレートをワイドに使い力のあるストレートを投げ込む。</p>											
2 守備について											
<p>二塁茂木と遊撃松井の堅実な守備が特徴である。三塁斎藤も打球に対する反応がよく肩が強い。状況に応じて捕手もこなす。外野手は、左翼新井中堅小船右翼多胡の3人は走力があり守備範囲が広くフィールドを駆け回る。特に左翼新井のポジショニングは打者を観察し鋭い当たりも反応よく抑えることができる。捕手岡本も、投手の持ち味を生かしながら的を絞らせないリードを行う。</p>											
3 攻撃について											
<p>1番斎藤2番角田は、パンチ力があり初球から積極的に打ちに行く。3番茂木5番新井は、器用さを持ち合わせバントやエンドランなど多彩に仕掛けることができる。4番でエースの細野は、勝負強く左右に鋭い打球を打つことができる。6番以降も甘く入った球は鋭く振り抜き、チャンスメイクをして上位につなげることを信条としている。控えでは、右の松下持田、左の本間田村と力をつけてきた3年生の意地に期待したい。勝負所では、俊足石井を切り札として足も絡めて勝負を仕掛けたい。</p>											
4 チームの特徴											
<p>エースで4番の細野が中心のチームだが、主将茂木をはじめとしてそれぞれが自分の役割をこなしチームを作ってきた。市大会県大会では、僅差のゲームの中で試合ごとにヒーローが生まれ歓喜の輪が生まれるなどチームとしての一体感が高まってきた。飛び抜けた選手が多くいるわけではないが、走攻守においてバランスよくそれぞれが持ち味を発揮しチームの勝利に貢献してきた。テーマは「今の一球に全力を尽くす」一投一打一走に感謝と強い思いを込めて、正々堂々と戦いたいと思います。</p>											
5 全国中学校軟式野球大会出場回数		1 回目									
6 チーム成績(練習試合を含む)		72 勝 25 敗 6 分									
7 本大会までの軌跡 (大会ごとに対戦相手とスコアを記入してください)											
大会											
前橋市 地区大会											
都道府県大会											
ブロック大会											
回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校
			順位決定戦	3-0	大胡中	2回戦	1-0	吉岡中	1回戦	5-4	立教新座中
			順位決定戦	4-0	荒砥中	3回戦	1-0	塚沢中	2回戦	2-0	駿台学園中
						準決勝	2-0	群馬中央中	準決勝	3-5	飯岡中
						決勝	5-1	大胡中			
8 学校紹介 (開会式のアナウンスの参考にさせていただきます)											
<p>群馬県は、関東の北部に位置し日本列島の中央付近にあることから日本のへそとしても有名です。前橋市立第七中学校は、県庁所在地前橋市の南端(北関東自動車道「前橋南IC」からほど近く)に位置している学校で、部員は、3年生14名、2年生6名、1年生7名の計27名で活動しています。</p> <p>『今の一球に全力を尽くす。』をテーマに一球に思いを込めて、仲間や応援・支えてくれる保護者のため、そして自分自身を人として、野球人としてより成長させるために練習に励んできました。一投一打一走に思いを込めて、チーム一丸となり勝利を目指し、全力で戦います。</p>											
9 主将の抱負											
<p>この仲間たちと野球ができる最後の大会なので、一戦必勝で楽しく野球をし、最高の夏にしたいです。</p>											